

『全国貸本新聞』にみる貸本漫画と貸本屋の衰退

串田 夏希

貸本屋とは、客から見料を取り、書物を貸す本屋である。日本では江戸時代の寛永期のころから成立しているとされ、一般大衆の娯楽として親しまれていた。昭和期の貸本屋は戦前と戦後で異なった様相を見せる。貸本についての研究は、近世についてのものが多く、昭和期のものについては未だ少ない。昭和期の貸本屋について研究しているものでも、同時代に発表されたものが多い。そのため、現時点から振り返って見れば、昭和の貸本業について全体的に扱われているとは言い難く、なかでも貸本業の衰退については十分に研究されているとは言い難い。昭和期の貸本についての代表的な研究としては、1971年に発表された沓掛伊佐吉の「昭和の貸本屋」と、1979年に刊行された梶井純の著書『戦後の貸本屋』をあげることができる。沓掛伊佐吉は「昭和の貸本屋」の中で戦前戦中も含めて調査している。しかし、その発表が1971年であったために、その後に訪れた貸本業の衰退期については言及がない。梶井純は著書『戦後の貸本屋』の中で貸本業者の視点から、1950年から60年にかけての状況を述べている。また、昭和期の貸本の特徴である貸本漫画についてもまとめている。

戦後の貸本業の衰退の原因については、従来の研究では、公共図書館の拡大や、週刊誌の普及、悪書追放運動が影響していると考えられている。しかし、著者は貸本業の歴史を研究することを通して、漫画に大きく依存した経営体制が衰退の原因の一つとして考えられないかという問題意識を持った。そこで本研究では、戦後貸本の特徴の一つである貸本漫画について『全国貸本新聞』を（指導教員 原 淳之）（指導教員 原 淳之）もとに分析した。

『全国貸本新聞』は、貸本業者で初めての全国的な組合である「全国貸本組合連合会」の機関紙として昭和32年（1957）から昭和48年（1973）まで発行されていた。そのため、当時の貸本業について、その経営状態や抱えていた問題などを理解する上で役立つ資料と考えられる。なお、本研究では不二出版によって2010年に復刻された『全国貸本新聞』を用いた。

研究方法は、『全国貸本新聞』の全記事から貸本漫画について書かれている記事782件を抽出し、それを用いて分析した。そこから、①当時の貸本業者が漫画と密接な関係にあったこと、②漫画に大きく依存した経営体制を明らかにし、さらに、③貸本漫画に対して業者はどのような意識を持っていたのかを明らかにした。

（指導教員 原 淳之）